

令和6年度第2回学校運営協議会 議事録

❖ 日 時 令和6年7月12日（金）14：30～15：45

❖ 場 所 湖南高等学校 図書館

❖ 参加者

委員（敬称略・順不同）

佐藤 宗良、和田 祐樹、渡部 智子、大内 紀男、山口 正国、矢島 敦、本田 康浩、野口 智行
（欠席：桑名 秀一郎、石田 慶仁、薄 良枝、佐藤 忠男）

事務局

菊池 由喜男、会田 房男、佐藤 修一、久住 貴紀、渡部 実和子、（欠席：森 修、五十嵐 稜）

❖ 内 容

1 開会のことば 菊池教頭

2 会長あいさつ

第2回の学校運営協議会。先ほど、高校生のビブリオバトルを初めて見ました。なかなか面白いバトルだと感じました。子供たちがいろいろな経験を積むことができていると感じます。

地域の実行委員会での湖南町のPRとして、7月20日に湖まつり、8月25日に高原まつり、そのほか盆踊りなどを予定しています。

また廃校となった小学校の校舎活用について、かつて湖南町には5つの小学校があり、現在は湖南小中学校のみとなっています。赤津、中野の小学校は今年度の取り壊しが決まりました。月形小学校の校舎は笹の川酒造が権利を得て、「ウイスキーの貯蔵庫」として活用するなど、今後は地域含めて話し合いを進め、利用していく予定です。

3 校長あいさつ（郡山市立第五中学校の高校説明会出席のため途中から参加）

二点お話ししたいと思います。

まず一点目、三菱みらい育成財団というところが学校の教育活動を助成するプロジェクトを展開しています。そのプロジェクトに、コミュニティ・スクールとしての本校の取り組みをまとめて応募したところ、採択され、3年間毎年100万円の助成を得られることが決定しました。今年度はこの助成を利用して、これまで少人数でしか行けなかった城北埼玉への研修に、大人数での交流ができるかと思っています。また、米粉について、これまで外注していたものを校内で生徒が準備できるよう、製粉機を購入し探究活動をすすめられ

るようにするなど、道具の購入も考えています。委員の皆様からも有効な活用についてご意見をいただきたいと思います。

二点目、今年度本校は、道徳教育推進校として1年間研修をします。小中学校のように教科としての設定はありませんが、日ごろからの地域の方々との関わり支援、そして探究活動などを通じて授業の中で道徳教育を推進しています。昨日は、道徳教育の校内研修の一環で、秋田公立美術大学副学長の毛内嘉威氏にお越しいただき、授業を見ていただきました。毛内先生からは、「文科省で言っている探究の目的以上の活動ができています。」というお言葉をいただき、外部の方からも認められてきております。これも運営協議会や地域の皆さまのバックアップがあってこそその成果だと思えます。意味付け、意義付けが大事であるとのことでしたので、活動の根拠をもって今後も進めていきたいと考えております。前回の運営協議会で委員長からお話をいただきましたが、教職員の多忙化解消も含めて地域の皆様のお力をお借りしながら学びを深めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

4 学校からの報告事項 菊池教頭

(1) 地域探究部（そば部）の活動報告

ア 男女共同参画事業への参加（5/12）・・・資料 p 2

「Z世代のお気軽参活」そば打ち体験に講師として参加。

イ 蕎麦プロジェクト関係・・・資料 p 2～5

今年は、そばに添えるネギを自給自足しようということで、同窓生の遠藤みずほさんからネギの苗をいただき、花壇に植えました。収穫祭の時に活用。

ウ 蕎麦検定初・二段認定5名合格（6/22）

(2) ぐるっと湖南・・・資料 p 5

1年生を対象に伝承会のみなさんに案内していただき、実施。

(3) 「米粉大作戦」始動！・・・資料 p 6～8

城北埼玉高校と事前にZ o o m等で交流を進め準備していたが、雨天のため、田植えは行わず、レクリエーションを実施。後日、田植えは有志の生徒たちで実施。

(4) 「夕暮!! 湖南塾」・・・資料 p 8

火・水・金の放課後～バスの迎いの時間までの30分間。短時間で集中し、学習の遅れを取り戻す。

(5) 地域ミライ探究

湖南町の伝統料理「ちまき」を作るために、笹の葉を採集するところから取り組んでいる。

(6) 令和6年度総合探究成果発表会

昨年まで1月に実施していたが、6月に発表し、先輩から後輩に伝承していけるようにした。今回初めて運営協議会の方々にも参加していただいた。生徒も見ていただいて刺激になった。

(7) 花壇整備について

本日(7/12)予備審査。

<質疑応答>

和田氏 ・ブログをいつも拝見している。先生方のご苦勞も推察します。

・夕暮湖南塾、昭和の香りがしてよい。

・ルーブリックを活用して何か成果があれば、教えてほしい。

まだであれば、今後の展望を知りたい。

教頭 生徒一人一人のデータを積み重ねている状況、その積み重ねのデータから変容などを見ている。

和田氏 生徒たちがそれを活用しているということですね。

校長 さまざまな行事でコメントを入れている。生徒の成長が感じられる。

5 協議事項

(1) 学校の魅力化のための意見交換(青い冊子参照) 菊池教頭

4月に、郡山市のZ世代活躍係から、「地域みらい留学」という、県外からも生徒を受け入れる取り組みについて、ぜひ湖南高校でも説明を聞いてみないかという連絡があった。事務局の方は、本校のHPの活動をみて郡山市に打診したとのこと。

資料18ページに載っている島根県の高校で、地域の過疎が進み、学校の存続が危ぶまれた際、地域の方々の発案で全国から生徒を集めたのが始まり。現在は全国142の学校が地域みらい留学を受け入れている(資料作成時は139校)。全国で年4回説明会を実施。説明会に全国から5000名の生徒が聞きに来ており、内500名が山村留学している。留学理由のおおまかな内訳 ➡ 学力が高く、より高めたい、地方を盛り上げたいという生徒が3割。地元に残っていても、なかなか進学が難しく、活躍の場を求め、その地域に魅力を感じて来た生徒が5割、中学校までの生活をリセットさせたい生徒が2割。

県内では只見高校と川口高校が地域みらい留学を受け入れており、資料の12ページに掲載されている。実際の留学例を挙げると、只見高校では、甲子園出場の様子を見て、沖縄からマネージャーとしてきたという生徒もいれば、中学校までのリセットと考える生徒もいるようである。

猪苗代高校と川俣高校は来年度から全国募集へ移行する計画(別紙新聞コピー参照)。

各校の特色を生かし留学の受け入れを検討していく模様である。

地域みらい留学の実態としては基本、1自治体（1町村）に1校。自治体に負担いただく金額が年間150万。郡山市としても前向きに検討していただいているところである。

この制度導入について皆さんのご意見を聞きたい。受け入れを実施するには住む場所の提供がどこまでできるかも課題になる。只見高校と川口高校には寮等があり、生活における負担は自治体が一部サポート。本校としても郡山市と今後の相談となる。生活費がどれくらいで受け入れが可能かも考えていく必要がある。

<ご意見>

会長 現在、湖南小学校の1年生は8名。地域としての今後をどう考えていくか。まず、交通の面、宿泊の面。かつては下宿があった。ただ、今は交通が便利になり、下宿等がないのが現状。地域みらい留学という県外からの募集も魅力的ではあるが、まずは湖南高校の魅力的な活動をもっと深めてからでもいいのではないかと。将来的には導入もいいのではとも考える。

和田氏 運営協議会に継続して参加させてもらっているが、以前も一度話題にでた。予算や制度的に難しいということで見送った経緯があった。ただ、今回、行政も入り受入が可能になってきているのであればいいと思う。ただ、これに乗ったからと言って生徒が集まるかはわからない。圧倒的に優位な学校が全国にたくさんあるので、乗ったから来るわけではない。年4回の説明会で先生や生徒が行ったときに、おそらく熱量が全く違う。風が来てるうちに早めに導入した方がいいと感じる。ただ、住む場所が難しい。学校で協議を進めていただきながら、地域としては住まいについて考えなければならない。

渡部氏 もし、湖南高校で受け入れを実施したら、湖南高校に入学できた生徒は幸せだろうと率直に感じる。和田さんの仰った熱量の違いについて、ただ単に定員を増やしたい学校もあると思うが、湖南高校での普段の先生方のきめ細やかな指導や、生徒の様子を見ていると、湖南高校に来たら人生が救われる生徒もいるのではないかと感じる。きっかけがあるときにぜひ参加出来たらいいのではと感じた。

本田氏 乗るんだったら今かなとも感じる。質問だが、先ほど言っていた負担金は事務局運営に市が納めるのか？

教頭 そうです。

本田氏 先ほど地域みらい留学理由の内訳で「中学までの生活をリセット」を望む生徒が2割と説明していたが、地域で問題になっているとかそういうわけではないのか？実際に説明会や実施校での実際の声を、観て聴いて判断したほうがいいのではないかと。

か。また、年4回開催される説明会は一般の人も参加できるのか？

教頭 事務局に説明し、確認すれば見学は大丈夫だと思われる。

和田氏 学区を超えてでも入学できるということだったが、中学校の先生方が、そのことをあまり説明しない傾向にある。学区内の進学しか基本的に勧められていないのが現実。だから保護者たちも、どの学校に入れたいかで引っ越すというような現実もある。

山口氏 大変いいことだと思う。湖南高校の授業や部活動も見させてもらっているが、学校の雰囲気や生徒と先生の繋がりがとても素晴らしい。私も湖南高校に入りたかったなと思うくらい素晴らしい学校。居住についてはネックだが、その辺が解決できれば良い取り組みになるのではないかなと思う。

矢島氏 高校説明会など地域営業に取り組まれていて、今年度は入学生も増えたとのことです。素晴らしい。県外から入学生を募るのは、良い取り組みだと思うが、正直わからない部分も多い。実際に受け入れている学校の生の声も聴きたい。いつ進めるのかを判断するためにも話を聞く事必要ではないか。

大内氏 人口は今後半減していくのではないかと考えると、何をもって湖南を活性化させるかと考えたときに、この取り組みは良いと感じる。いろんな課題は一つ一つ解決していけばよい。せっかくの追い風なので、早く手を挙げて乗るべきだと思う。

会長 方向的には進めたほうが良いという意見が多い。

ひとまず今やっている学校から情報収集し、状況を確認したい。

教頭 来週の職員会議で、先生方にもお知らせし、方向性を検討する。

次回の運営協議会で他校の情報などをお示しできればと考えている。

和田氏 導入に際して課題もあるので、留学に詳しい経験者が校内にいた方がよい。コミュニティ・スクールとしての学校運営協議会は人事に関するリクエストも可能なので、経験のある先生に次年度来ていただけるようにリクエストするのもありではないか。管理職の異動も2年に一回ではなく、3年に1回にできないか。次回そのようなリクエストが出せれば議事録に載せて提出するなど検討してもよいのではないか。

(2)「コミュニティ・スクールと進路実現」・・・資料p14～ 久住

(過去6年間の卒業生の進路概況について説明。)

今年度の就職希望先について、市内の就職を希望している生徒がほとんどである。今年度は面接指導を9月13日(金)15時45分からとさせていただいている。

今年もご協議の上、是非ご協力賜りたい。日時等ははっきりした段階で、正式に連絡依頼

をさせていただく予定です。よろしくお願いいたします。

(3) その他 菊池教頭

ア 道徳教育推進校の指定による実施計画について

別紙実施計画書参照。4の研究計画にある米粉プロジェクト、人権擁護委員による人権教育、秋田公立美術大学副学長の毛内嘉威氏による校内研修などを実施済み。

また、地区別推進協議会（資料3枚目）を10月31日の9時20分～16時00分までの計画で開催予定。県内の小中学校の教員や指導主事、地域の方々にお越しいただく予定。運営協議会の委員の皆様にもぜひ参観いただきたい。本校の取り組みを県内の小中学校の先生方に知っていただく良い機会としたい。

9月24日には先進校視察として広島瀬戸田高校に1名派遣予定。同じ規模観の高校であるため、日々の学習にどのように道徳教育を入れこんでいるか共有を進めたい。あわせて、レモン農業産業を中心とした活動をしているので、六次化商品などに関連する学びも含めて交流を目指す。

イ 今後のCS関係の主な予定について

資料16ページ参照。

ウ 地域ボランティア活動等の主な予定について

資料16ページ参照。

6 閉会のことば

※ 諸連絡

次回、第3回運営協議会の開催日は 10月16日（水）

和田氏 助成金については、あくまで助成金なので単年度で終わるもので使うよりは、先ほどの製粉機など持続的に使えるものにするのが良いのでは。

会長 7月1日から猪苗代湖の湖上に網を張っており、プレジャーボートやモーターボートなどの規制がかかっている。（3年前の事故をうけて）入れる区域と入れない区域がある。湖を利用する際は、ブイの手前で泳ぐように学校からも声掛けをお願いしたい。

・浜のごみや騒音の問題について

対策としてエリアを決めて利用していただくということでルール等を決めている段階。ごみの有料化、駐車場の有料化等の話も出ている。

和田氏 7月1日から自然の家の管理しており、館浜や横沢浜を歩く機会が増え気づいたのだが、松枯れがだいぶ進んでいる。昨年、神奈川のキャンプ場で枯れた枝が折れて人に落ちて死亡するという事故が起きた。危険性がある状態だということ
を認識しておく必要がある。ごみ拾いなどで活動する際は、十分注意を促したうえで活動してほしい。

教頭 本校もプレジャーボート1台所有。関係機関への申請は終わっているが、その他、許可証等は必要か。➡要確認。

(15:45終了)